

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21 年 4 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501308		
法人名	有限会社 レストケア		
事業所名	グループホーム ピーぶる		
所在地	〒005-0850 札幌市南区石山東3丁目3-8 (電話) 011-592-5100		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年3月18日	評価確定日	平成21年4月14日

【情報提供票より】 (21年2月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 11人, 非常勤 5 人, 常勤換算	10.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円		
その他の経費(月額)	光熱費(月額)25,000円 ・ 暖房費(11月~3月)11,000円		
敷金	有 (60,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要 (3 月 18 日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	3 名	要介護 2	4 名
要介護 3	5 名	要介護 4	4 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 80.3 歳	最低 60 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ときわ病院・日の出歯科真駒内診療所・愛全病院・石山病院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、開設して8年目に入り事業所の基盤も堅固なものになっている。閑静な住宅街の中に違和感なく建っている。近くには利用者の散歩コースとなっている緑地帯もあり自然環境に恵まれている。運営者は40年間の長期間において看護師として医療現場で認知症高齢者、家族と接してきた。その経験を活かし、住宅を改修し利用者5人と共にそれまでの看護経験を生かし安心して暮らせることを目的とした事業所を開設した経緯がある。いつも利用者本位の意識を大切に、その人らしく誇りのある暮らしを続けることを、管理者、職員が積極的に熱意を持って支援している。職員が一体となって、利用者のよりよい暮らしの実現に取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回の改善課題は、地域密着型サービスの意義を盛り込んだ理念の策定が遅れている。とのことであった。その後、地域密着型サービスとして事業所の役割を考えた理念に作り上げており改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>全職員が評価の意義を確認し真摯に取り組んでいる。職員間で項目ごとに検証し管理者が集約して自己評価を行った。日頃からサービスの質の確保や更なる向上を目指し職員間で話し合っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>3ヶ月に1度運営推進会議を開催している。町内会役員、老人クラブ会長、地域包括支援センター職員、家族代表、管理者が出席、事業所の活動状況、行事予定報告をしている。そこで述べられた意見や、要望を運営に反映できるように取り組んでいる。また、インフルエンザ、ノロウイルスの対処方法などの勉強会をしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時には、気軽に意見、要望、苦情を言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮している。また、利用者の健康状態、金銭収支など詳細に報告されている。家族の面会が少ない利用者もおられる。毎月ホーム新聞が発行されているので利用者の日常生活の様子について個別にコメントを入れたり行事予定、案内など記載方法の工夫が望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>日頃から近所の方とは、散歩時に挨拶したり声を掛けている。町内清掃、夏まつり、盆おどりなど町内会行事には積極的に参加している。また、近くの小学校児童が総合的な学習時間の一環として社会見学に来て、以後数名の児童が自主的に来訪しており、利用者と楽しく過ごしている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中のグループホームを目指し、利用者地域の中でその人らしく暮らし続ける環境、地域での関係づくりを重視し、現状に添った事業所独自の理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念は、目の付きやすい玄関ホールや事務室に掲示し、朝の申し送り時に唱和すると共に会議やミーティング時に確認し、介護あり方などに迷った時などには理念に立ち戻り、日々のサービスの提供に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方とは散歩時に挨拶したり声を掛けている。町内会行事の夏祭りや町内清掃などに参加している。また、近くの小学校児童が総合的な学習の時間の一環として社会見学にきて、以後数名の児童が自主的に来訪してくれており利用者と児童が楽しく過ごしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に真摯に取り組んでいる。職員が項目ごとに意見を出し合い、管理者が集約して自己評価表を作成した。日頃からサービスの質の確保や、更なる向上を目指し職員で話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度運営推進会議を開催している。町内会役員、老人クラブ会長、地域包括支援センター職員、家族代表、職員が出席、事業所の活動状況、行事予定報告をしている。また、ノロウイルス、インフルエンザなどについての勉強会も行なっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡協議会などで連携することが多くあり、市の理解もあり相談できる良好な協力関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の暮らしぶりや、健康状態、金銭収支など詳細に報告されている。しかし、家族の面会が少ない利用者も多く、電話で報告している。	○	毎月「ぴーぷる新聞」を発行している。家族の面会が少ない利用者も多いので、利用者の日常生活の様子を個別にコメントを入れたり、行事予定、案内などの記載方法の工夫が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、気軽に意見、不満、苦情を言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮している。また、ホーム内に意見箱が設置されており、出された意見などは、ミーティングなどで検討し運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者の精神的な負担を考慮し、人事異動は最小限に抑えるように配慮している。二つのユニット間で職員が日常的に行き来する機会も多く、利用者、職員ともに馴染みの関係が出来ている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員経験に応じて段階的に外部研修を始め、内部研修など積極的に受講出来る機会を設けている。研修内容を会議等で報告したり、全職員が閲覧できるようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に出席し、同業者のネットワーク作りや情報交換を行なっている。地域包括支援センター主催の事例検討会に出席するなど、様々な勉強会に参加し、職員の報告を通しサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には可能な限りホームに来ていただき居室などを見学、本人が安心し納得した上でサービスを利用出来るように家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の関わりの中で、食事作り、後片付け、花壇の水やり等で一人ひとりの出来ることを大切にしながら、出来ない部分を支えている。利用者の昔からの習慣から学ぶことも多く、ともに支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けしたり、動作や表情から本人の思いを受け止めている。また、職員間で意見交換を行いながら、本人の希望の買い物、ドライブ、食事会などの支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はアセスメントを行うと共に、利用者の日々の生活や見守りの中で本人の意見、家族の要望、職員からの情報を聞きカンファレンスを行い、介護計画に反映させるようにしている。職員間のチームワークがよく活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に記載されている個別の期間を目安に評価を行い、計画的に見直しが行われている。利用者に変化が見られた場合には、本人、家族、職員で話し合い早急に見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに看護師が2名おり、利用者の健康管理や変化に初期対応でき重度化を防いでいる。利用者の通院送迎、買い物、外出など、本人、家族の状況に応じて多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による隔週の往診や、本人、家族が希望する主治医がおり定期的に受診している。家族が付き添えない場合には職員が通院介助をおこなっている。複数の協力医療機関との関係を密に結んでおり、緊急時には適切な医療を受けられるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応指針を定めており、入居時の話し合いに加え段階的な合意が行われ、家族、かかりつけ医師、看護師、職員間の話し合いの中で、グループホームが対応し得る最大限の支援を考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に利用者の一人ひとりの誇りを大切にし、やさしく声掛けや、敬意のある対応に配慮している。また、記録等の個人情報の扱いについては、個人情報保護法に対応した配慮がされた取組が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、利用者一人ひとりの体調に配慮しながらラジオ体操、レクレーションなど、押し付けにならないよう出来るだけ個別性のある支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	機能低下している利用者もおられるが、ご本人の力、食べる意欲を優先させながら自力でゆっくりと食事が出来る支援に努めている。また、食事の準備、食器の後片付けなども、職員と一緒にされるかたもいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴出来るような体制を確保している。一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの思いや、生活歴、身体状況などを見ながら買い物、外出、日々のレクレーションなど、利用者の得意なことを、力量に合わせた楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏期は中庭にある畑、花壇の手入れ、水やり、散歩、買い物など日常的に支援している。また、冬期間は、毎月1回の外食、日帰り温泉などドライブを兼ね戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はせず、鍵のない自由な暮らしを大切にしている。外出を察知した場合は、職員が付き添って安全確保に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に消防署の協力もあり、避難訓練、消火器の使用方法などの訓練を行っている。緊急時には近隣住民の協力について、運営推進会議で依頼している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は食材納入業者の管理栄養士が作成している。利用者の状態に合わせた摂取量を決めており食事の量、水分量などがわかるように記録し、全職員が共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間を中心に事務コーナー、洗面台、キッチン、トイレなどの共用空間が使いやすい動線となっている。台所から食事の準備の様子、食器の洗う音が聞こえ生活感が感じられる。また、廊下の奥には椅子が置かれておりゆったりと過ごせるような工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせるその人らしい部屋になっている。		

※  は、重点項目。